

環境に係る情報協議会

国営かんがい排水事業 訓子府北栄地区

1. 環境に対する考え方

《農村環境の現状と課題》（各町「田園環境整備マスタープラン」より）

【現状】

訓子府町 訓子府町の面積の50%が豊かな森林でおおわれており、その山間部にはさまざまな動植物が生息している。また、河川は常呂川水系を中心とした典型的な段丘波状地域であり、それらにより形成された「田園風景」が町のシンボルとなっている。

置戸町 周囲は緑豊かな自然環境が広がり、四季の移り変わりが鮮明で夏はさわやか、冬は積雪・寒冷が特徴であり、このような自然的特性が置戸の個性を形づくっている。

【課題】

訓子府町 多くの自然環境を保全するとともに、自然生態系に配慮した河川整備等が必要である。

置戸町 山地・農地の自然環境を保全するとともに、その公益性を大切に人と自然が調和できる環境づくりを進めていかなければならない。

《環境保全の基本的考え方》（各町「田園環境整備マスタープラン」より）

訓子府町 水資源のかん養、自然環境の保全、景観の形成などの多面的機能を発揮し、豊かな自然環境と土地資源を生かした環境調和型農業を促進する。

置戸町 計画的な土地基盤整備の促進で農地の保全・地力の向上・生産性の向上と、適正な自然環境の保全に配慮して、人と自然が調和する環境も形成し、ゆとりとうるおいのある生活空間の創造と美しい農山村の実現を図る。

2. 環境配慮計画の策定に向けた調査

《基本方針》

○ 調査位置の考え方

排水路周辺は、農地に隣接している区間が多いが、樹林帯を横断している区間があり、排水路改修により直接的影響を与える可能性がある。
このため樹林帯横断部を代表地点として選定する。

○ 調査項目の考え方

既往調査結果の活用を基本とするが、整備に伴い生育・生息環境に直接影響を与えることが想定される哺乳類、鳥類、両生類は虫類、昆虫類及び植物について現地調査を実施する。

《環境調査内容》

○調査項目 ①哺乳類 ②鳥類 ③両生類・は虫類 ④昆虫類 ⑤植物

○調査方法	哺乳類	:フィールドサイン法・目撃法
	鳥類	:ポイントセンサス法
	両生類・は虫類	:目撃法
	昆虫類	:任意採集法・ライトトラップ法 ・ベイトトラップ法
	植物	:植物相調査